

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2008～2009

課題番号：20820023

研究課題名（和文）仏領植民地期北アフリカにおける都市・行政ネットワークの諸相

研究課題名（英文）Urban Network and Administration in the Maghreb under French Colonial Rule

研究代表者

工藤 晶人 (KUDO AKIHITO)

大阪大学・人間科学研究科・特任研究員（常勤）

研究者番号：40513156

研究成果の概要（和文）：

本研究は、19 世紀後半から 20 世紀初頭の仏領植民地アルジェリアにおける都市の建設、行政ネットワークの形成過程を分析し、植民地社会の変容を動的に考察することを試みた。各年度に海外の文書館、図書館で調査を行い、その考察にもとづく成果として英語論文 1 本、日本語論文 3 本を発表した。国内研究会と国際研究集会においてそれぞれ 1 回のワークショップパネルを主催し、それらをふくめて計 5 回の口頭報告を行った。

研究成果の概要（英文）：

The research has been concentrated on the plurality of administrative system and on the topographical aspects of urban-rural relationships in colonial Algeria. Articles published include: "Recognized Legal Disorder: French Colonial Rule in Algeria", in: Kimitaka Matzuzato (ed.), *Comparative Imperiology* (Slavic Research Center) and three other articles in Japanese. During 2008-2009, I delivered five papers in various conferences and chaired two workshops with colleagues working on Asian History.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,280,000	384,000	1,664,000
2009 年度	1,160,000	348,000	1,508,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,440,000	732,000	3,172,000

研究分野：歴史学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：歴史学・植民地・都市・行政・フランス:アルジェリア:地中海

1. 研究開始当初の背景

(1) 国内学界では植民地史、帝国史の研究はイギリス帝国史と日本近現代史を中心に活発化している。しかしフランスとその旧植民地については、文化史研究の成果をのぞくとくに地域の事例に立脚した研究の蓄積が不足している。なかでもフランス植民地の中で最大の入植者コミュニティが形成され、本国との政治・経済・文化の連鎖という点で重要な位置をしめたアルジェリアについて研究が待たれる状況にある。

(2) 国外の研究動向

国外においても、植民地期アルジェリア研究の活発化は近年の現象である。とくに両大戦間期から独立戦争期(1954-1962年)に関する研究が著しく進展したものの、植民地体制形成期(19世紀後半から20世紀初頭)の再検討が今後の課題として浮上している。

この時期に関する研究でむしろ先行しているのはアメリカの学界である。しかしそこではポストコロニアル・スタディーズの理論にもとづく文化論、権力論に関心が集中しており、本研究の課題である社会構造の実態解明という点で問題点が残されている。

2. 研究の目的

以上の動向を受けて、本研究は、19世紀後半から20世紀初頭の仏領植民地アルジェリアにおける都市の建設、行政ネットワークの形成過程を分析し、植民地社会の変容を動的に考察することを目的とした。

その特徴としては、

- (1) 従来実態が明らかでなかったアルジェリア所蔵の史料を積極的に活用しつつ
- (2) 都市建設と行政プロセスのミクロな考察を通じて、
- (3) 思想史・政治運動史を中心とした先行研究が明らかにしてこなかった日常世界の構造に接近しようとする点があげられる。

3. 研究の方法

(1) 理論的側面では近年フランス近現代史、植民地研究の両分野で注目を集めている法社会学分野の研究を中心に精査した。また、各年度に海外の文書館、図書館で調査を行い、行政文書、定期刊行物、地図、図像史料などを収集して分析を進めた。

(2) 各年度に、フランス国立公文書館海外部門(CAOM)、フランス国立図書館(BNF)を中心として資史料調査を行った。

(3) 資史料の分析を通じて、植民地における異文化間接触の場となった都市のトポグラフィについて考察をすすめた。

(4) 19世紀中葉アルジェリアをフィールドとしたフランス人によるイスラーム研究について研究し、行政システムの多層性と結びついた土地法の展開を分析した。

4. 研究成果

研究期間を通じて得られた知見の要点は以下の通りである。

(1) フランスの植民地統治については、本国の政治モデルと植民地の体制をむすびつけた古典的な比較論がある。すなわち、中央集権的な国家モデルをもつフランスは、植民地についても行政上の同化をめざして直接的な統治を優先し、それと対照的に、地方分権的なイギリスは、植民地においても統治を現地人に委任し、間接的な統治を主軸とした、という類型論である。

この比較論は単純すぎるものであり、現在では、英仏はそれぞれがローカルなコンテクストに応じて「直接統治」と「間接統治」を使い分けた、という理解が一般的になっている。しかし、こうした研究の進展にもかかわらず、アルジェリアについては、現在でも「直接統

治」と「同化」の典型例として論じられることが少なくない。

しかし実際には、アルジェリアの体制の基盤となったのは、特徴的な二重の地方行政区制度であり、そこには、「関節統治」的な性格が強く表れていた。

完全実施自治体と混合自治体という二種類の地方行政区は、ヨーロッパ系入植者とアラブ・ベルベル系先住民の共存を統御するための制度として設計され、19世紀後半から20世紀中葉まで、植民地の行政制度の基盤となった。

本研究が注目した入植都市、村落の建設とそれらによって形成されるネットワークは、この地方行政の二重性に対応する。それは、一般には同化主義の典型とされるアルジェリアの統治が複雑な実態を内包していたことをしめす例証である。

(2) 都市ネットワークと行政制度の二重性は、その背後にある法制度の多元性へとつながる問題である。

本研究の第二年度後半には、フランスの東洋学者によるイスラーム法研究に注目して、植民地経営の基礎条件となる土地制度についての議論に焦点をあてて考察をすすめた。

ここでは、イスラーム社会における土地国有制という説を下敷きにし、先住民の土地権利を単なる用益権とみなす議論や、あるいは、先住民がヨーロッパ同様の土地の所有権をもつとらえた上で、個人所有と部族共有という分類を導入して解釈を行うなど、相互に矛盾するさまざまな説が生まれた。

立法の次元では、1863年の元老院決議と、1873年のワルニエ法というふたつの法律が、土地私有権の設定によって、結果として先住民からの土地収奪を加速したものとして知られる。これらの法律の解釈、運用をめぐっても、多様な議論がおこなわれた。

以上の法学議論の基本的構図を、当時の文献を用いて整理をおこなった。

(3) 以上の成果を、以下に記す国内外の研究発表機会を通じて公表した。下記に記載したもの以外に、2010年度前半に査読論文1本、国際会議発表1回の発表を予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

1. 工藤晶人「フランス植民地をめぐる記憶・法・歴史研究」(査読無)『歴史と地理 世界史の研究』218号(2009年)45-48頁。

[学会発表] (計5件)

1. KUDO, Akihito. “Law and cultural interplay in French colonial Algeria 1830-1914”, ESF-JSPS Frontier Science Conference Series for Young Researchers, Fukuoka, 28 Feb 2010.
2. 工藤晶人「19世紀アルジェリアにおける植民地学と法—土地権利を中心に」フランス史研究会(東京 2009年12月12日)
3. 工藤晶人「19世紀フランス東洋学の伏流—エルネスト・メルシエとその周辺」関西フランス史研究会(京都 2009年7月11日)
4. KUDO, Akihito. “Reframing colonial hybridity: Urbanism in French Algeria in the Late 19th Century”, 1st Congress of Asian Association of World Historians, Osaka, 30 May 2009.
5. 工藤晶人「アルジェリアにおける地域形成と都市—植民地のハイブリッド性再考」大阪大学グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文学」/海域アジア史研究会共催ワークショップ(豊中 2009年1月10日)

[図書] (計3件)

1. 工藤晶人「オラン—地中海のラテン的植民地都市」吉田伸之・伊藤毅編『伝統都市1イデア』東京大学出版会(2010年)印刷中。
2. KUDO, Akihito. “Recognized Legal Disorder: French Colonial Rule in

Algeria” , in: Kimitaka Matzuzato (ed.),
Comparative Imperiology, Sapporo: Slavic
Research Center(2010), pp. 21-35.

3. 工藤晶人「ヴィオレ・ル・デュクとオリエ
ント」伊藤毅編『バスティード フランス中
世新都市と建築』中央公論美術出版(2009年)
61-62頁.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

工藤 晶人 (KUDO AKIHITO)
大阪大学・人間科学研究科・特任研究員(常
勤)
研究者番号: 40513156